

## 平成25年度宇陀市各会計当初予算編成方針について

本年7月に宇陀市産業振興会議から「宇陀市における産業振興のための提言書」が提出されました。提言書では、「ひと・モノ」資源を活かす取組みを進め、観光を盛り上げながら産業の振興を目指していかねばならないと提言されています。

また、8月には宇陀市行財政刷新会議から「宇陀市行財政改革に関する提言」が提出されました。市民が住んでよかったと実感でき、夢あるまちであり続けるために、引き続き行財政改革に積極的に取り組むとともに「行財運営の健全化」と「市民との協働によるまちづくり」を宇陀市政の行政目標の柱に掲げ、各種施策を展開されるよう提言されています。

平成25年度予算については、産業振興会議の提言の具現化に取り組むとともに、引き続き行財政改革等に積極的に取り組み、強い財政基盤を確立しなければなりません。

宇陀市においては、これまで行政を本来のかたちに、単なる行政改革ではなく行政を刷新するという考えの中で、事務事業の原点からの見直し、経常経費10%削減、職員の300人体制などの目標のもとに改革改善に取り組み、経常収支比率、実質公債費比率などの財務指標も改善し、一定の成果が上がりつつあります。しかし、これは普通の市の財政状況になりつつあるということでもあります。

本市の財政構造は、市税収入が約15%に過ぎず、市の収入の大半は国から配分される地方交付税に依存しています。

しかも、その地方交付税は、宇陀市合併に対する国からの支援措置として約17億円を時限的に増額されており平成28年度からは段階的に縮小がはじまり平成33年度には増額措置はなくなります。

このようなことを踏まえたうえで、今後もより行政効率を高め、行政経営という視点を持ちながら宇陀市で定住し、安心・安全に生活してもらう住みよいまちづくりに取り組み、“高原の文化都市 四季の風薫る宇陀市”であり続けるために、市民とともに希望と夢が膨らむ未来へのまち

づくりを確実に進めていかなければなりません。

また、平成25年度は現在策定中の「宇陀市総合計画 後期基本計画」のスタートする年であり、目標達成に向け「夢ある明日へ羽ばたくまちづくり予算」を編成しなければなりません。

については、当初予算編成方針を次のとおり定めたので、これを十分踏まえ、すべての部署において、市民の皆さんが宇陀市に生まれてよかった、暮してよかったと実感できる創意工夫した予算となるように、職員一人ひとりの英知を結集し、議論に議論を重ね、予算要求をしてください。

平成24年10月1日

宇陀市長 竹内幹郎

## 基本方針

### 1. 宇陀市の行財政の改革の推進

#### (1) 行財政改革への取組み

引き続き宇陀市第2次行政改革を進めること。また、宇陀市行財政改革に関する提言書の視点を予算に反映させること。

経常経費の削減を引き続き行うこと。

#### (2) 事業のマネジメント

全ての事務事業について、行政経営の視点で、施策目的の再確認を行い、最少の経費で最大の効果が得られるよう事務事業のあり方を見直すこと。

#### (3) 歳入の確保

①市税はもとより、各市債権の回収に全力を上げ、自主財源の確保に努めること。

②本市を取り巻く歳入環境を考慮し、遊休土地や財産の売却により財源確保に取り組むこと。

③国・県の予算編成の動向を把握し、補助金等活用できるものについてはその獲得に努めること。

## 2. 住みよいみんなの新しいまちづくり

### (1)積極的な施策の展開

子育て支援、高齢者支援の充実など「市民満足度」が得られる新規事業に取り組むこと。

### (2)安心安全なまちづくり

災害対策など危機管理の強化につながる施策を推進すること。

### (3)市民との協働

市民主体の「まちづくり協議会」が設立されることから、その支援施策を各部署で検討すること。

## 3. 宇陀市の将来に向けた事業の選択と集中

### (1)平成25年度の重点事業

平成24年度当初予算の主要施策を引き続き推進するが、特に産業振興会議の提言書の具現化に取り組むこと。

- ① 産業振興観光振興プロジェクト
- ② 市民安心安全プロジェクト
- ③ 子ども未来応援プロジェクト
- ④ 地域の元気創造プロジェクト
- ⑤ 共に考え行動する「協働」プロジェクト
- ⑥ 改革改善プロジェクト

## 4. 特別会計について

一般会計に準じて予算編成するものとし、更なる節減に努めること。

また、財源を安易に一般会計に依存することなく、国県補助金の獲得、自主財源の確保に努め、より効率的な運用に努めること。

## 5. その他

各経費については、別途指示する予算編成要領により精査すること。